



慶應義塾大学

論理と感性のグローバル研究センター

2018年度末公開成果報告会

日時:2019年2月28日(木) 13:00~17:40 参加自由・事前登録無し  
場所:慶應義塾大学三田キャンパス 南館 B4F ディスタンスラーニングルーム

<https://abelard.flet.keio.ac.jp/seminar/annual-meeting-logic-sensitivity-2018/>

(プログラムの最新情報は上の URL をご覧ください)

Global Research Centre for  
Logic and Sensibility

Session I **Communication & Interaction**

**発達科学グループ** (司会: 皆川泰代)

関根和生(本センター)

子どもは談話における身振りをどのように理解しているか?

**生物心理学グループ**

伊澤栄一(文学部)

個体間の親和的関係の形成メカニズム

**ロボット工学グループ**

大澤正彦(理工学研究科)

Human-Agent Interaction 研究—ドローンの実現に向けて

**遺伝と教育グループ**

安藤寿康(文学部)

家庭環境は環境か—家庭内の文化伝達の行動遺伝学的研究

Session II **Culture & Art**

**文化人類学グループ** (司会: 北中淳子)

山田理恵(東京大学総合文化研究科)

日本の「難病」研究から再考する拒食症の医学史

牛山美穂(大妻女子大学人間関係学科)

医師の「専門知」と「患者の知」をめぐる医療人類学的研究:アトピー性皮膚炎を事例に

**民族学考古学グループ** (司会: 杉本智俊)

長尾琢磨(文学研究科)

墓形態からみる古代ユダヤ人の死生観—エルサレムとヘレニズム都市の墓から—

**美学・美術史グループ** (司会: 遠山公一)

小野智恵(本センター)

ハリウッド・ルネサンス映画における視線と台詞のパラゴニー

**哲学グループ** (司会: 岡田光弘)

源河亨(東京大学総合文化研究科・日本学術振興会)

音楽とユーモア

Session III **Research Ethics · Responsibility**

**· Judgment**

**倫理学グループ**

奈良雅俊(文学部)

社会科学・行動科学研究における倫理

**社会心理学グループ**

平石界(文学部)

心理学における再現性問題:極めて心理学的な心理学者

**認知神経科学グループ** (司会: 梅田聡)

大隅尚広(国立精神・神経医療研究センター)

責任能力の指標の探究:自己の行動の結果に対する事象関連電位

**認知心理学グループ**

伊東裕司(文学部)

司法における「確証バイアス」

Session IV **Imaging · Prediction · Decision**

**倫理学グループ** (司会: Ertl, Wolfgang)

Istvan Zoltan Zardai(文学部・日本学術振興会)

AI, Decisions and Responsibility

**発達科学グループ** (司会: 山本淳一)

山本淳一(文学部)

Social Imaging: Innovation for Development and Education

**感性科学グループ** (司会: 川畑秀明)

田中拓海(社会学研究科)

行為結果の予測に関与する報酬手がかり処理の検討

**Closing Address**

渡辺茂(慶應義塾大学名誉教授・生物心理学グループ)

空間認知研究のモデル動物としてのウナギ



主催:慶應義塾大学 論理と感性のグローバル研究センター (<http://www.carls.keio.ac.jp/gcarls/>)  
お問い合わせ先:本報告会事務局 (e-mail: [logic@abelard.flet.keio.ac.jp](mailto:logic@abelard.flet.keio.ac.jp))